

環境保全活動推進における 環境カウンセラーの役割

吉備国際大学

環境カウンセラー 井 勝 久 喜



平成21年度環境カウンセラー研修(平成21年12月5日)

環境カウンセラーに求められる力量
～ 環境カウンセラーの知識・知恵・人間関係力 ～

結 論

**環境カウンセラーである前に
信頼される人間でありたいものです**

講演の目的・目標

目的

持続可能な社会作りに貢献できる
環境カウンセラーの育成

目標

グループ討議に向けた話題提供

大学教員の悲哀

これまでの教員 = 知識の伝達者, アクター

主役は教員

授業方法: 講義形式(学生は無視しても良い)

授業内容: 高度な専門知識(自己満足)

学生指導: ティーチング(わからない学生が悪い)

評価: 教員が学生を評価

これからの教員 = コーチ, カウンセラー

主役は学生

授業方法: 参加型学習(アクティブラーニング)

協同学習、LTD、PBL、BRD、三方向授業、分節化授業、など

授業内容: 高度な知識を分かりやすく(学生の理解優先)

学生指導: コーチング、カウンセリング、ファシリテーション
(学生の能力を伸ばせない先生が悪い)

評価: 学生が教員を評価(寝ている学生からも評価される)

環境保全活動推進における 環境カウンセラーの役割

1. 環境カウンセラーと環境カウンセリング

2. 環境カウンセラーに必要な資質

3. 環境カウンセラーの役割

環境カウンセラーとは

環境大臣は、この規程の定めるところにより、環境保全活動を行おうとする者に対して環境保全及び環境保全活動に関する知識の付与並びに環境保全活動に関する助言又は指導(以下「環境カウンセリング」という。)を行うことを希望する者のうち、適切な能力・見識等を有する者として広く国民に対し推奨すべき者(以下「環境カウンセラー」という。)を、環境省に備える環境カウンセラー登録簿に登録するものとする。

環境カウンセラー登録制度実施規程第2条

環境カウンセラー登録制度実施規程に記載されている

環境カウンセリングの内容

環境保全活動を行おうとする者に対する

『知識の付与』

- ☆環境保全に関する知識
- ☆環境保全活動に関する知識

『助言又は指導』

- ☆環境保全活動

カウンセリングの語源

カウンセリング(counseling)の語源は聖書の中の“the counsel of perfection”つまり天国に入ろうとする者への完徳(心をきれいにする事)の勧めという言葉にあるとされている。

英語のcounselは、相談、助言、意図、分別などを意味し、アドバイスなどとは異なり、慎重に考慮した上で、ある方向へ方向づけるという意味がある。

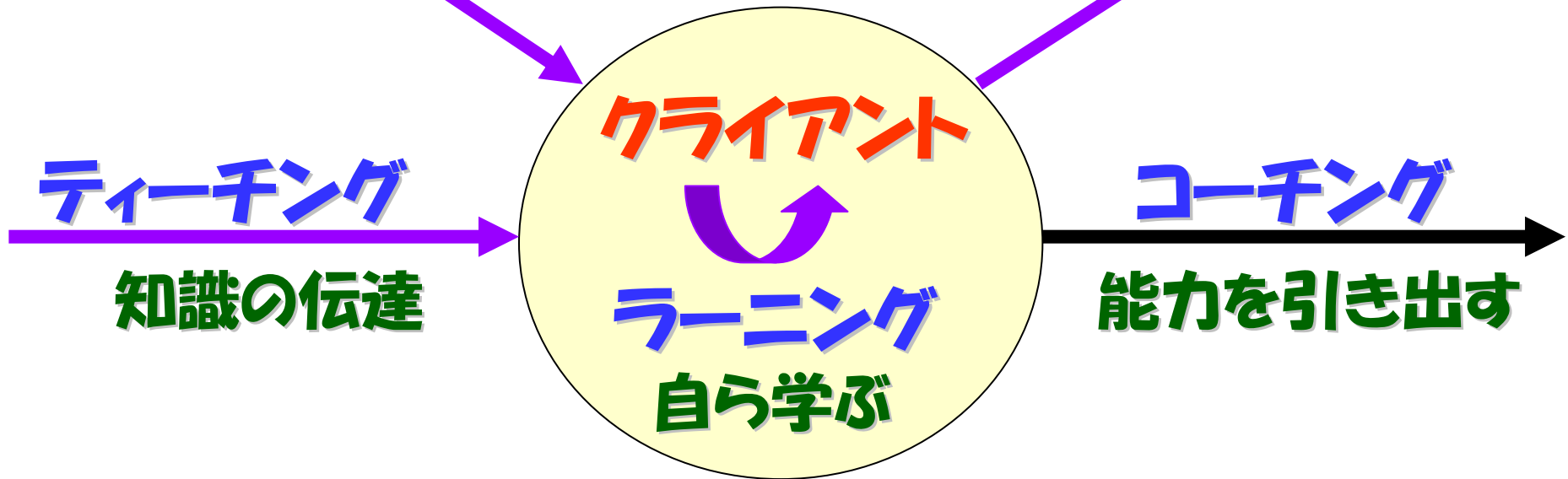
カウンセリングの定義の一例

- ① 非常に言語的過程であり、
- ② その過程でカウンセラーとクライアントとは力動的に相互作用し、
- ③ カウンセラーは様々な種類の活動を通して、
- ④ 自分の行動に責任を持つクライアントが自己理解を深め、意味のある意志決定をして、それを行動していくように援助すること。

Herr, E. L. (1978)

カウンセリング

専門家として解決策の立案を援助する



アドバイス・コンサルティング
支援・忠告・助言(言いっぱなし)

環境保全活動推進における 環境カウンセラーの役割

1. 環境カウンセラーと環境カウンセリング

2. 環境カウンセラーに必要な資質

3. 環境カウンセラーの役割

環境カウンセラーの要件

- 一. 環境保全に関する**基本的な知識**を有すること。
- 二. 環境保全活動に関する**相当の知識と経験**を有すること
- 三. 前二号の知識と経験を活用して、**環境カウンセリング**を行いうる**資質及び能力**を有すること

環境カウンセラーの要件

- 一. 環境保全に関する基本的な知識を有すること。**
- 二. 環境保全活動に関する相当の知識と経験を有すること**
- 三. 前二号の知識と経験を活用して、環境カウンセリングを行いうる資質及び能力を有すること**

環境保全活動

環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する 第二条

**地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護
及び整備などの環境の保全を主たる目的として
自発的に行われる活動のうち、環境の保全上直
接の効果を持つもの**

環境保全に関する**基本的な知識**

「**基礎的知識**」、「**正しい知識**」ではない

「あること」について、それがあることとして成立している理由について、**一つの物語として語る**ことができるようになる、科学的、技術的、政治的、経済的、国際的、社会的、医学的、歴史的、法律的、考古学的、財政学的、文化的、軍事的、地政学的、芸術的などの**多面的情報**のこと。

科学的とは

科学とは反証可能性を備えるものである
科学とはある現象に理屈を付ける作業である

科学は反証可能性が命 → 永遠に結論が出ない！

モデルがそれへの反例が見つかるまで偽でないことを示すだけで、モデルが正しいことを示していない。この意味で科学は正しい知識を与えていない。反例が現れるまで、誤りとはいえない知識を与えるだけである。

環境問題に関する議論の枠組み(社会像)

社会像

技術

技術システム (技術進歩がどこまで対応しうるか)			
ガイア主義	地域社会主義	調和型	技術楽観主義 開発主義
ローテク	(技術)		ハイテク
農業系	(生産)		工業系
エコピア	(都市)		テクノピア

経済

経済システム (どんな経済的仕組みをつくるか)			
エコロジー経済システム	調和型経済システム	自由経済システム	
平等主義	功利主義	自由主義	エリート主義

政治

政治体制 (政治イデオロギーをどうするか)			
環境主義	生態系主義	社会主義	自由主義
環境立国	(国是)		産業立国

崩壊を駆動する社会システム

★富の分布の持続不可能性

★贅沢な消費の持続不可能性

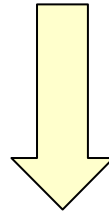
★世界金融システムの持続不可能性

★既存の社会構造の持続不可能性

★人間が自然に対してかける負荷の持続不可能性

環境問題解決の必要性

根本に位置するもの



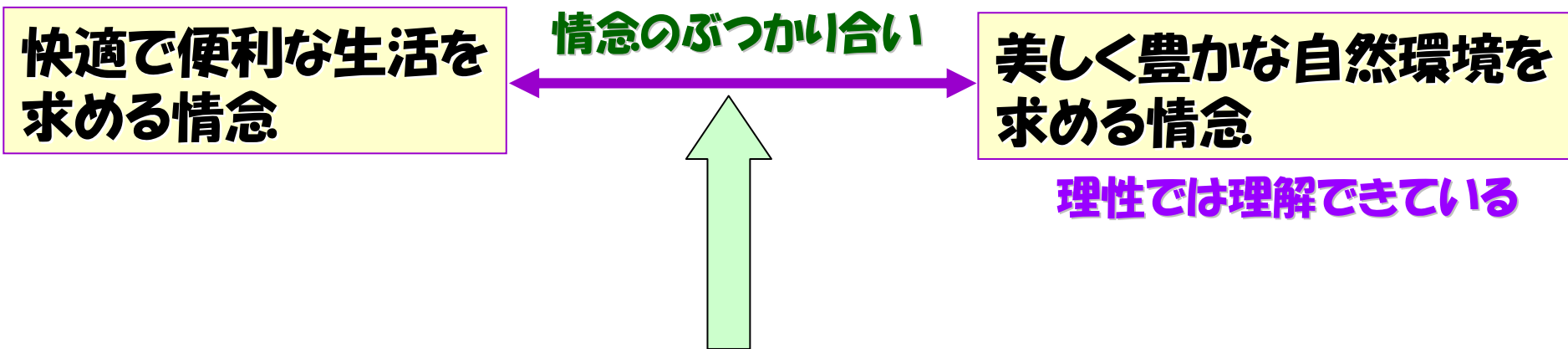
未来世代の権利

(世代間倫理)

なぜ未来世代に責任を持たなければならないのか？

「世代間の正義」は受け入れられても、人は動かない

人を動かしているのは「情念」である



人はより強い情念により動かされる

**あまいにも人間の本性を無視した施策
(環境省の地球温暖化対策)**

- ★シャワーを一分短く
- ★テレビを見る時間を1時間減らそう
- ★一家が一部屋で団らんしよう

間違っていないですか？



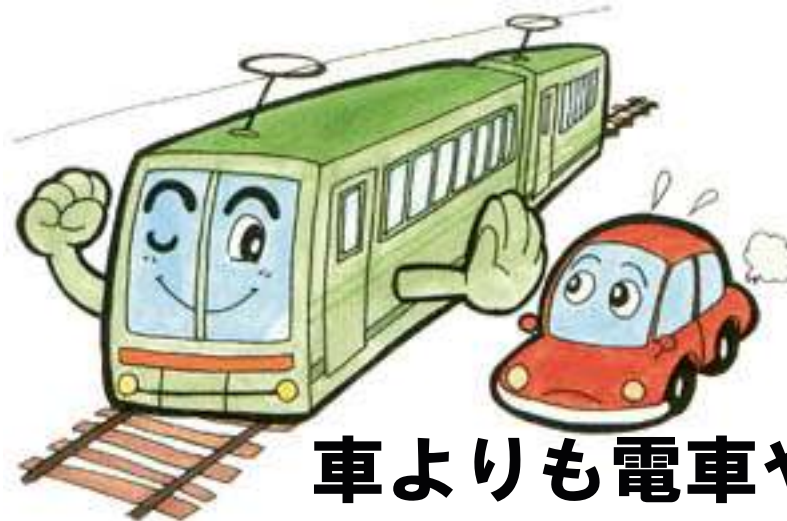
窓辺や庭などで
緑を育てよう



冷蔵庫のドアは
開けたらすぐ
閉めよう



不必要なアイドリングはやめよう



車よりも電車やバスを
利用しよう

ライフスタイル

ライフスタイルは社会的, 文化的, 経済的
背景によって形成された価値観に基づく
個人の生活様式

価値観(優先順位)が変わらないと

ライフスタイルは変わらない

社会にビルト・インされている選択肢

私たちが選べる選択肢は、社会システムで限定されており、自分のライフスタイルを自由に選べないか、それを選べば社会生活を送るのに不自由を被る。



ライフスタイルは社会のありようによって制限されている
= ライフスタイルは、社会システムに組み込まれている



ライフスタイルの変革は個人の決意だけの問題ではなく、社会システムそのものの変革を前提としている。

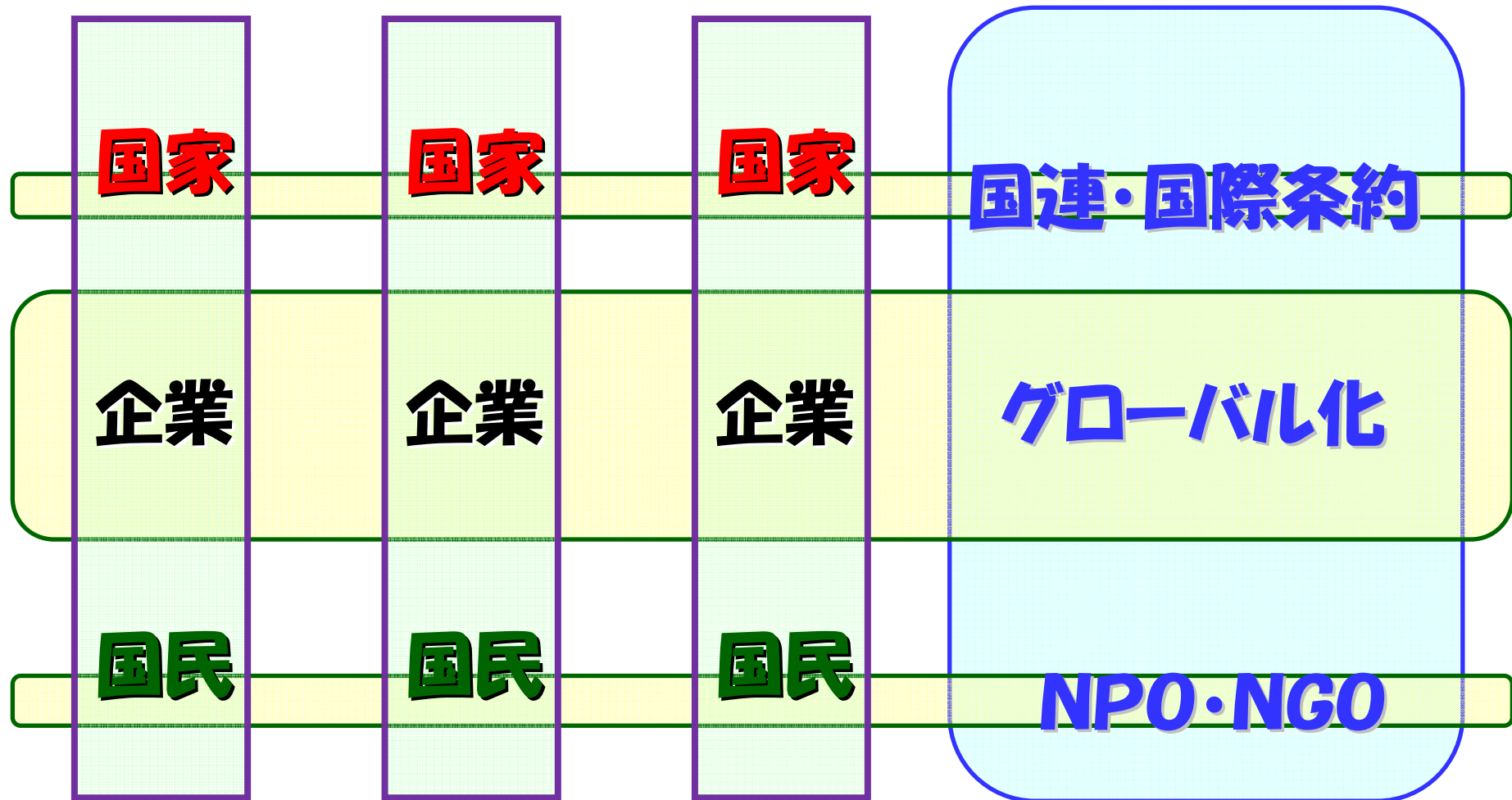
囚人のジレンマ

共同で犯罪を行った(と思われる)2人が捕まった。警官はこの2人の囚人に自白させる為に、彼らの牢屋を順に訪れ、ある条件を伝えた。

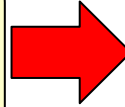
	囚人B 黙秘	囚人B 自白
囚人A 黙秘	(2年、2年)	(15年、1年)
囚人A 自白	(1年、15年)	(10年、10年)

合理的な各個人が自分にとって「最適な選択」(裏切り)をすることと、全体として「最適な選択」をすることが同時に達成できないことがジレンマと言われる所以である。

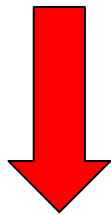
国家とグローバル企業



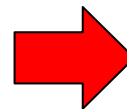
経済的豊かさの貪欲な追求



政治・経済・社会の問題



科学技術で解決しようとするから解決できない!



自然科学的現象

地球温暖化, オゾン層破壊
酸性雨, 生物多様性の減少
砂漠化, 熱帯林の破壊, など

科学技術で解決しよう

環境カウンセラーの要件

- 一. 環境保全に関する基本的な知識を有すること。
- 二. 環境保全活動に関する相当の知識と経験を有すること
- 三. 前二号の知識と経験を活用して、環境カウンセリングを行いうる資質及び能力を有すること

環境保全活動に関する**相当の知識と経験**

必要な知識と経験は

**環境カウンセリングを行うのに
ふさわしいものであること**

環境保全活動に関する経験

事業者部門：環境保全活動に関する実績の累積年数が**5年以上**

- i) 自身の所属する企業・団体で公害防止や環境管理等、環境保全に関する業務に携わった経歴や、社内における環境保全のための具体的な取組、計画づくり等の相談への助言を行った実績。
- ii) 自身の所属する企業・団体以外から依頼を受けて公害防止や環境管理等、環境保全に関する業務に携わった経歴や、第三者の事業者に対する環境保全のための具体的な取組、計画づくり等の相談への助言を行った実績。

市民部門：環境保全活動に関する実績の累積年数が**4年以上**

- i) 自身が所属しない団体(市民団体、各種教育機関、地方公共団体等)などから依頼を受けて環境保全に携わった実績、また地域の環境保全活動に積極的に関わった実績。
- ii) 自身の所属する団体で、業務あるいはボランティアとして一般市民を対象とした環境活動の企画・運営、講師等を行った実績。
- iii) 地方公共団体等の委嘱による環境アドバイザー等としての活動実績。

環境カウンセラーの要件

- 一. 環境保全に関する基本的な知識を有すること。
- 二. 環境保全活動に関する相当の知識と経験を有すること
- 三. 前二号の知識と経験を活用して、環境カウンセリングを行いうる資質及び能力を有すること

環境カウンセリングを行いうる

資質及び能力

資質 = 向き、不向き

能力 = あることを実現する力

環境カウンセラーに向いている人

**クライアントに寄り添える人、他者の痛みがわかる人、
クライアントの自立支援ができる人**

環境カウンセラーに向いていない人

**自分を売り込もうとする人、自分を自慢したい人、
他人を無知だと思う人、自分が主役でいたい人
自分の気持ちを察してほしい人**

環境カウンセラーに求められる資質と能力

カウンセリング能力

ティーチング能力

コミュニケーション能力

信頼関係構築力

コーチング能力

ファシリテーション能力

環境に関する知識

クライアントから信頼される人間性

(ライフスキル、ソーシャルスキル、EQ)

心理カウンセラーのコミュニケーションスキル

- ① **かかわる技術**
 - ・信頼関係
- ② **話し方の技術**
 - ・ペーシング, 座り方
- ③ **聴き方の技術**
 - ・相づち, オウム返し, 質問, 要約
- ④ **伝え方の技術**
 - ・アイメッセージ
- ⑤ **受容と共感の技術**
 - ・感情の理解
- ⑥ **誰の問題かを明確化する技術**
 - ・クライアントとのかかわり

カウンセリングを行う上での倫理

- (1) **クライアントの人権尊重**
 - ・クライアントの利益を最優先すること
- (2) **心の未知な世界への尊敬**
 - ・人の心が分かっているという傲慢さを持たないこと
- (3) **謙虚さと自己信頼**
 - ・自分の不安や恐怖をクライアントに投影しないこと
- (4) **人間としての自己研鑽**
 - ・人間としての資質を自己研鑽していくこと
- (5) **私的関係との線引き**
 - ・クライアントの依存や不安、苦悩につけ込まないこと
- (6) **約束と秘密**
 - ・個人の秘密を守ること
- (7) **各専門機関との協力と効果的連携**
 - ・一人で抱え込むのではなく、広く協力関係をひらく努力をすること

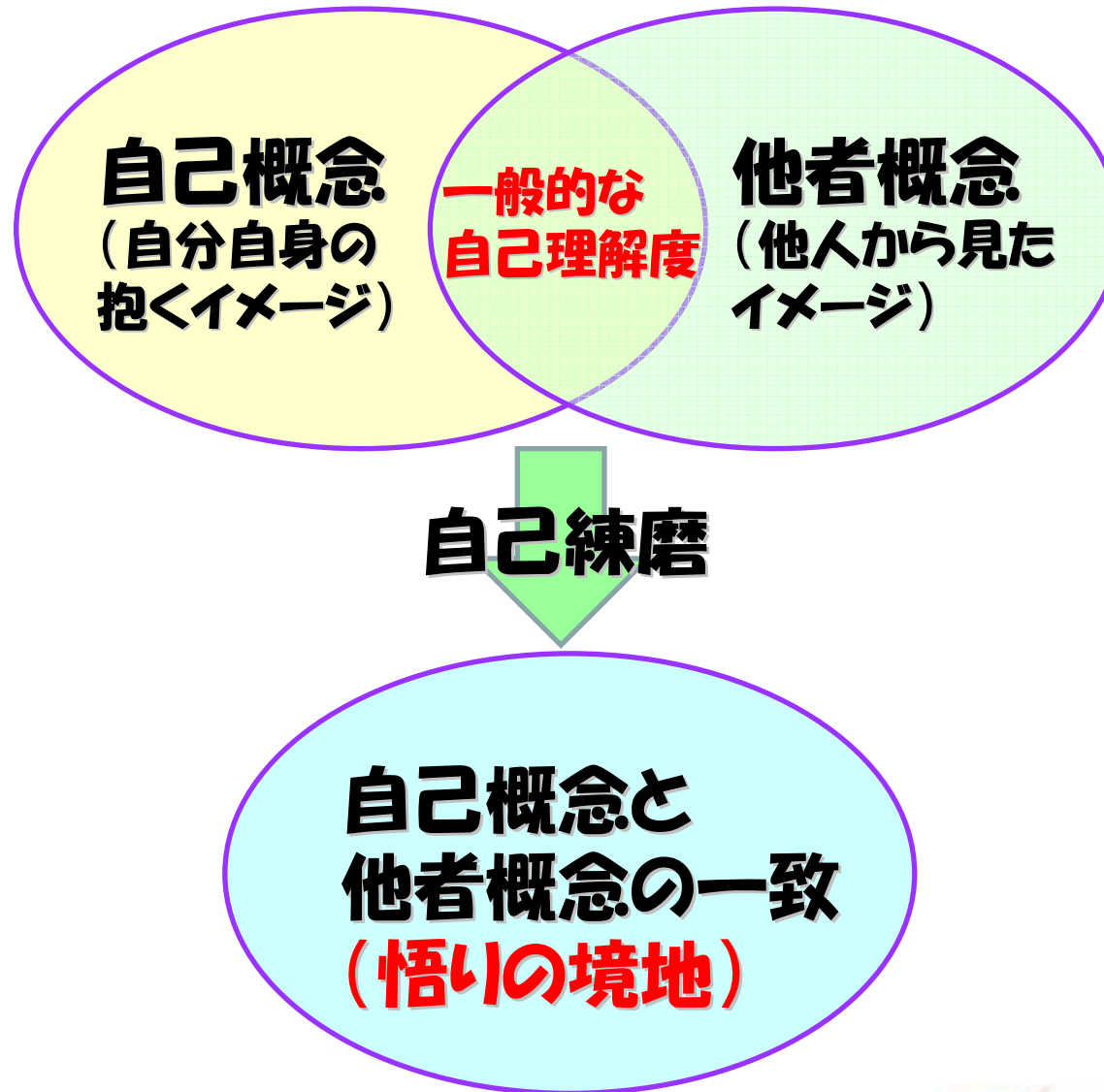
環境カウンセラーとしての 資質と能力向上に必要なこと

★ 振り返りと自己理解

★ 自己研鑽

★ 経験の積み重ね

人材育成の前に己を知る



高学歴者が必ずしも成功しない理由 (環境カウンセラーと環境専門家)

教養

- ★博士の学位を持っている
- ★記憶力が良い
- ★知識が豊富

思いやり

- ★集団間感情が見える
- ★相手の気持ちがわかる

≠

環境専門家

≠

環境カウンセラー

環境カウンセラーの態度

【避けるべき態度】

- ★ 自分が優位に立とうとする態度(上から目線)
- ★ 相手を説得する態度(自分の意見の押しつけ)
- ★ 心を通わせない様子(相手の話を聞かない)
- ★ 自分の立場を守る態度

【取るべき態度】

- ★ クライアントとの関係性を大切にする
- ★ クライアントの立場で考える
- ★ クライアントと共に問題を解決する態度

環境保全活動推進における 環境カウンセラーの役割

1. 環境カウンセラーと環境コンサルティング

2. 環境カウンセラーに必要な資質

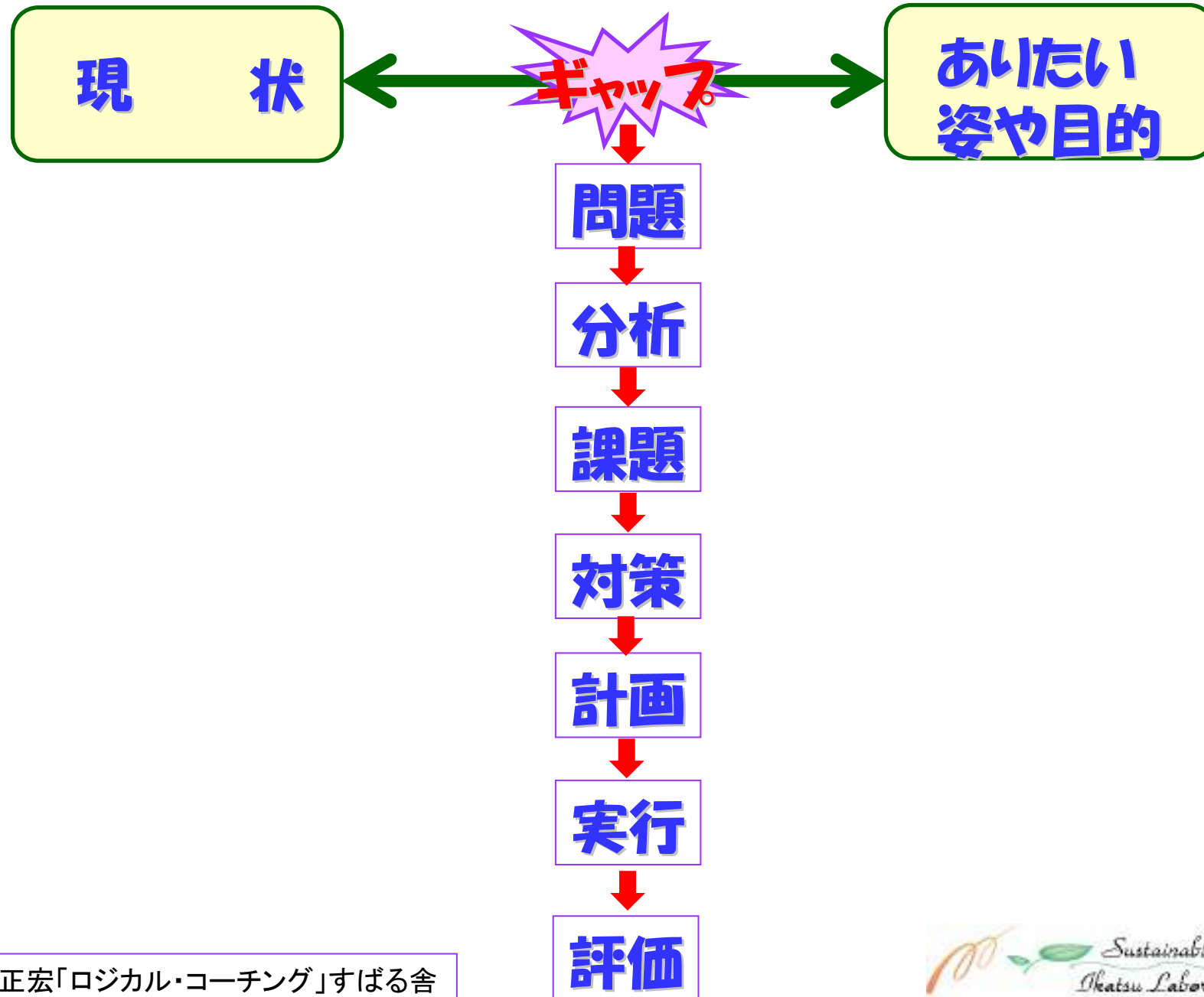
3. 環境カウンセラーの役割

環境カウンセラーは

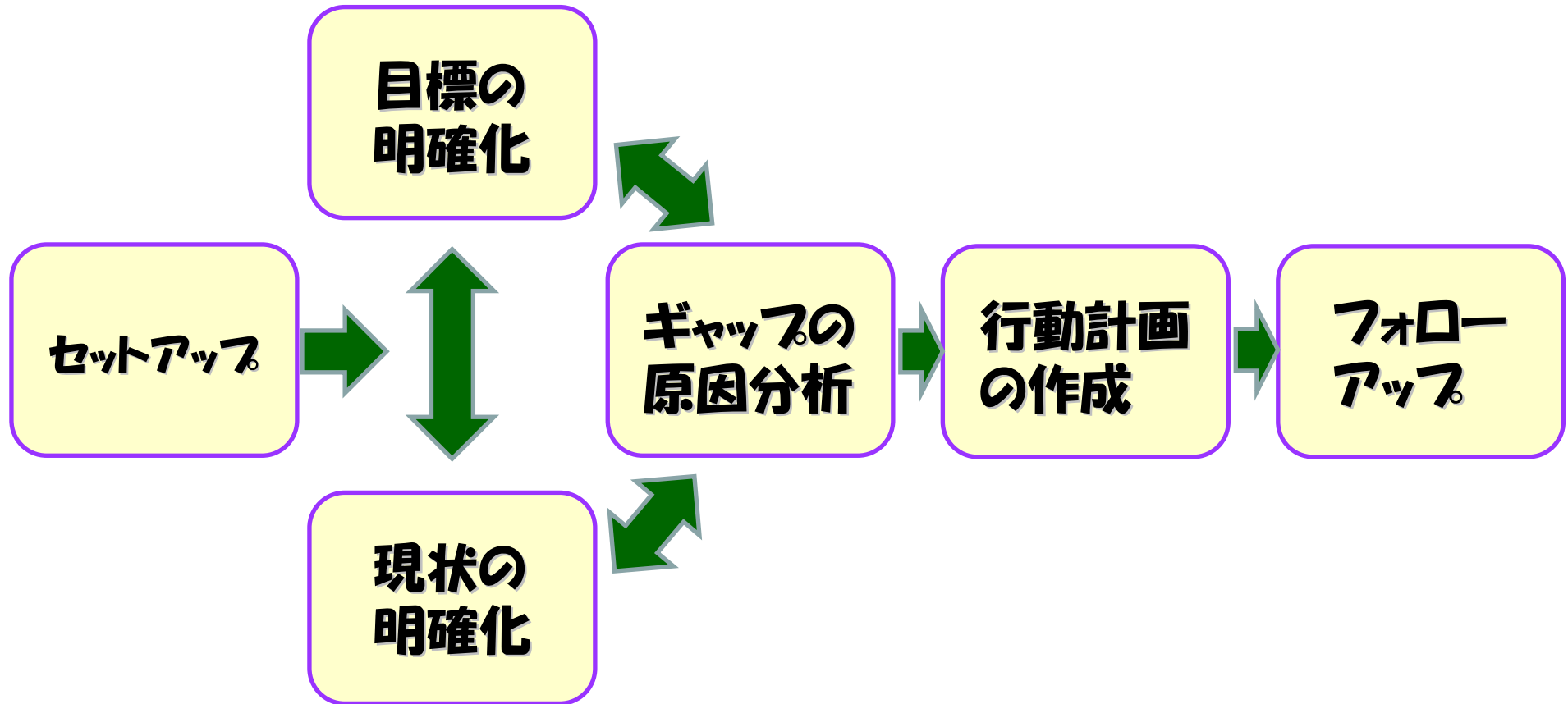
クライアントの環境保全活動を

正しい方向で推進することができるか？

問題設定・問題解決のフロー



コーチング・プロセス



知識と行動の溝を埋める

★必要なのは何をすべきではない
それを実際に行動に移す方法

★アイデア＝行動
行動が伴わないならそれはアイデアではない

★アイデアを行動に結びつけるには
アイデアを生み出すとき以上のコミュニケーションが必要

環境カウンセラーの役割 「対立の解消」

望ましい方向

対話

理解し合い信頼関係が強くなる

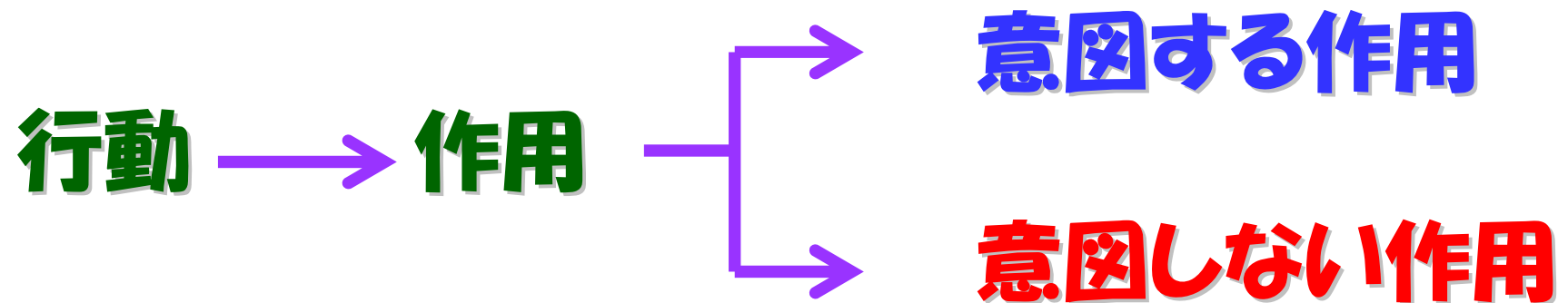
議論

中途半端な会話が延々と続く

討論(闘論)

話術が上手な人が勝っておわる

カウンセリングの作用と副作用



問題解決のための働きかけ

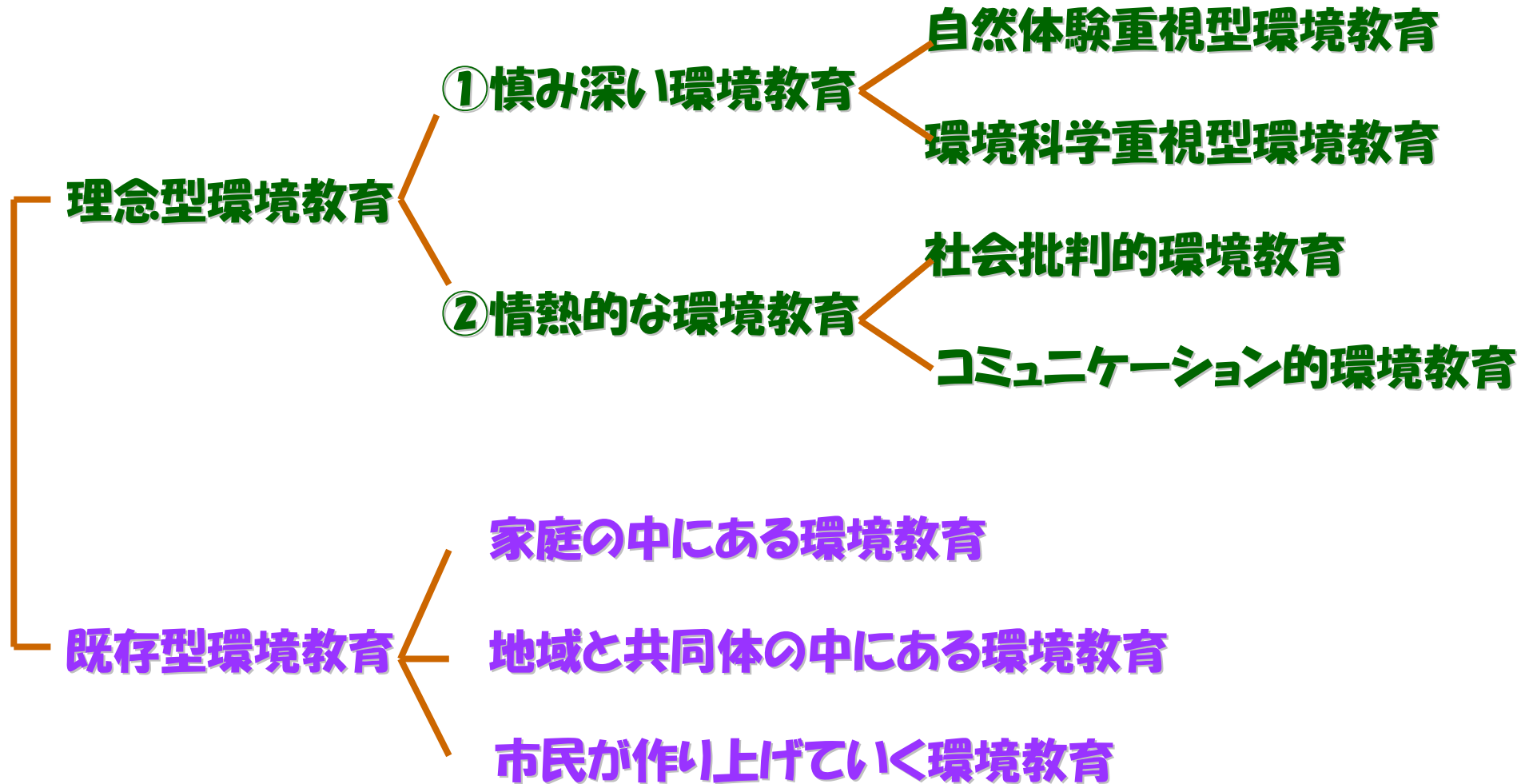
- 問題の解決
- 新たな問題の発生

環境経営で、**環境問題**を解決できるのか

市民活動は、**環境問題**を解決できるのか

環境教育は、**環境問題**の解決につながるのか

環境教育の総合的分類図



子供たちへの環境教育で期待すること

★今の生活をやめて地球を守る

★今の生活を続けて地球を減ぼす

★今の生活を続けて地球を守る

環境教育におけるダブルバインド

ダブルバインド: 矛盾する二つの命令に従えず、行動不能に陥ること

★学校教育は、現在の社会をそのまま丸ごと再現する機能を持っている

★社会問題解決型の教育(環境教育等)は社会を変革することを求めている

学校には、現在社会をそのまま再現するという意味での再生産と、現在の社会とは異なった社会を造り出すという意味での変革という矛盾する社会的機能が求められている。

環境教育の壁

☆描くべき持続可能な未来像が曖昧

- ★スローガンでは環境教育のメッセージが届かない
- ★環境を守るために快適で便利な暮らしはやめましょう
- ★魅力的で新しい生き方の提示が必要

☆持続可能な未来社会を構築する方法が不明確

- ★環境配慮行動(エコな暮らし)だけでは持続可能社会は作れない
- ★自然体験をすれば子供は環境を大切にするだろうという幻想
- ★持続可能な社会を作る計画や具体的な戦略の明示が必要

☆環境教育に取り組む教師の問題

- ★先生ご自身はどうですか？ 環境保全に取り組んでいない教師のジレンマ
- ★環境問題の解決に自信のない教師の教育は伝わるか？

メカニカル＝テクニカルな環境教育の問題点

メカニカル: 環境問題を理解する科学的認識と機械的(メカニカル)な予防策
テクニカル: 環境に優しい人間を技術的(テクニカル)に制作する

環境問題の科学的な実態把握と因果関係の議論はつきない

反証主義科学論的な立場から環境教育を見ると

科学の完全性が保証されない限り

環境教育はその場限りの仮説に過ぎない

科学の完全性が保証すると

科学への「信頼」ではなく「信仰」となってしまう

環境保全活動の推進における 環境カウンセラーの役割

- ★ 専門家や活動家とのネットワーク作り
- ★ 専門家を選びクライアントとつなぐ役割
- ★ クライアントに対する環境カウンセリング
- ★ 活動や行動全体のマネジメント

話を聞いてくれと言うと
あなたは忠告を始める
私はそんなことは頼んでいない

話を聞いてくれと言うと
そんな風に考えるものじゃないとあなたは言う
あなたは私の心を踏みにじる

話を聞いてくれと言うと
私の代わりに問題を解決してくれようとする
私が求めているのはそんなことではない

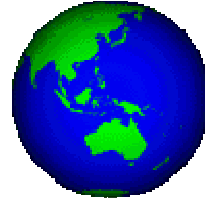
聞いてください！ 私が求めているのはそれだけだ
何も言わなくてもいい、何もしてくれなくてもいい
ただ私の話を聞いただけでいい

忠告など安いものだ
新聞を買うお金さえあれば
いろいろな有名人が人生相談に答えている

それくらいは自分でできる
たしかに少し弱気になり、迷ってはいるが
それくらいは自分でできる

だから、ただ私の話を聞いてください
そして、もしあなたが話したいなら
自分の順番を待っていてください
そうしたら、私もあなたの話を聞きましょう

グレン・V・エカレン「豊かな人間関係を築く47のステップ」



お わ り

ご静聴ありがとうございました